

壱分遺跡群と暗越奈良街道

小栗明彦 (橿原考古学研究所附属博物館)

1. 壱分遺跡群の発掘

・西畑遺跡

調査名	調査年	概要
第1次	1993～1994年	弥生時代中期の方形周溝墓跡2基、竪穴建物跡1棟。古墳時代中期の竪穴建物跡12棟。奈良時代の大型掘立柱建物跡5棟。鎌倉・室町時代の掘立柱建物跡12棟、土坑墓1基。など。
第2次	1996年	弥生時代中期の竪穴建物跡2棟。古墳時代中期の竪穴建物跡1棟。平安時代の掘立柱建物跡4棟。など。
第3次	1997年	古墳時代中期の竪穴建物跡2棟など。
第4次	2000年	鎌倉・室町時代の土坑など。
第5次	2000年	鎌倉・室町時代の小土坑など。
第6次	2000年	鎌倉・室町時代の小土坑など。
第7次	2000年	弥生時代中期の土坑。古墳時代中期の土坑。奈良時代の柱穴跡。鎌倉・室町時代の溝跡。など。
第8次	2009年	弥生時代の土坑など。
第9次	2011年	平安時代の掘立柱建物跡など。
第10次	2011年	古墳時代中後期の土器棺墓、平安時代の耕作地跡など。
第11次	2013年	鎌倉・室町時代の溝跡。
第12次	2014年	遺物のみ出土。
第13次	2014年	古墳時代後期～平安時代の掘立柱建物跡1棟。鎌倉時代の掘立柱建物跡3棟、柱穴跡、井戸跡1基、耕作地跡。など。

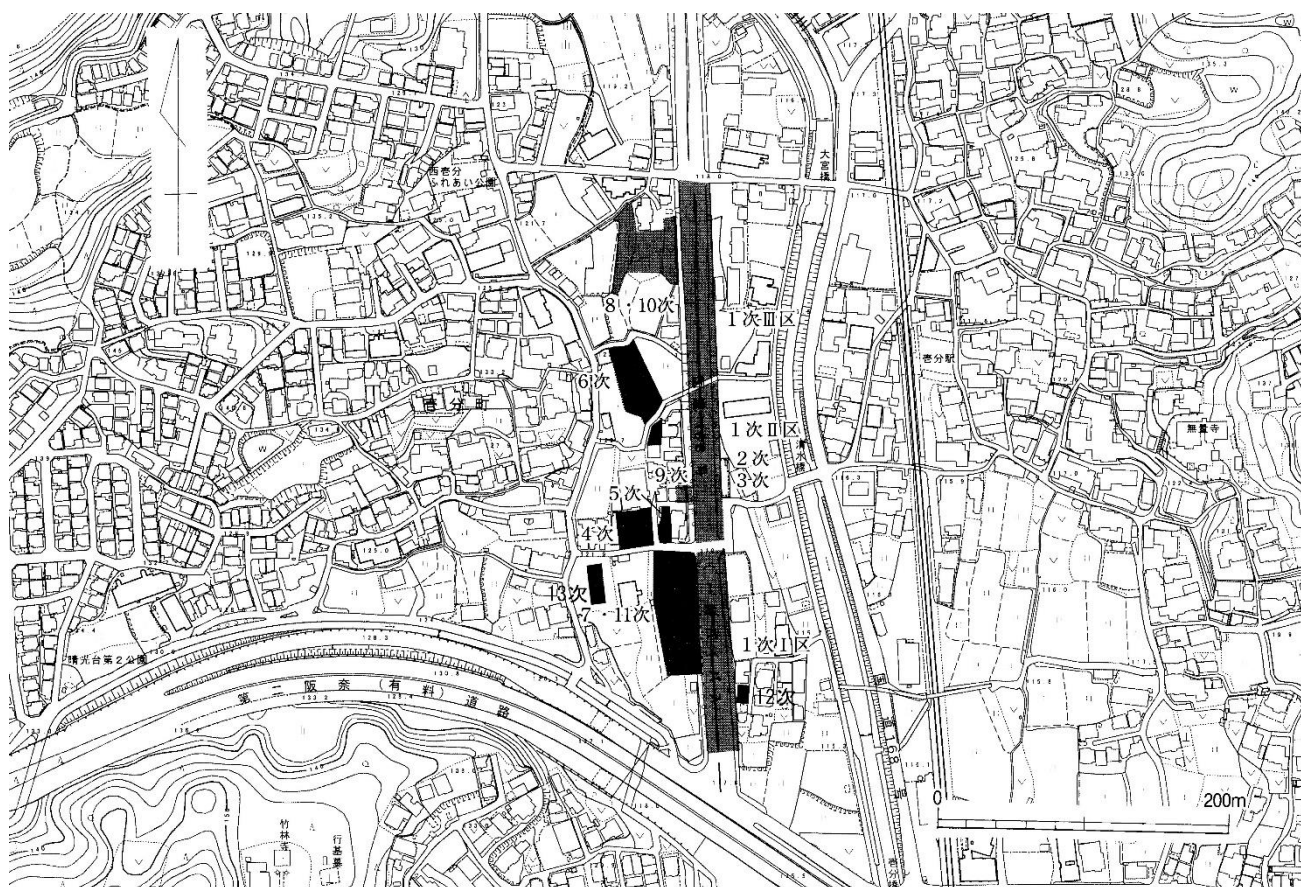


図1 西畑遺跡の発掘調査地区 (『生駒市内遺跡発掘調査概要報告書 2013年度』25頁第21図に加筆)

・ 壱分宮ノ前遺跡

調査名	調査年	概要
第1次	1995年	古墳時代中期の断面V字形溝1条、古墳時代後期の溝1条など。
第2次	1995年	古墳時代中期の断面V字形溝1条、竪穴建物3棟、古墳時代後期の溝1条、飛鳥時代の掘立柱建物群など。
第3～5次	不詳	不詳
第6次	2002年	遺物を含む地層。
第7次	2002年	弥生時代の旧河道。
第8次	2003年	盛土内工事に設計変更。



図2 壱分町航空写真 1949年（米軍撮影）



2008年（国土地理院撮影）

		生駒谷	富雄谷	盆地北部	盆地東部	盆地西部	盆地南部
第1階層 (大王)	主丘径 170m級				渋谷向山 (168m)		
第2階層 (王族)	130m級			宝来山 (130m) 佐紀陵山 (131m)		築山 (120m)	
第3階層 (大首長) ↓ (中首長) ↓ (小首長)	105m級		富雄丸山 (109m)		上の山 (100m)	倉塚 (106m)	
	85m級			佐紀高塚 (84m)	東大寺山 (80m)	三吉2号 (83m)	
	65m級			猫塚 (65m)	赤土山 (66m)	佐味田宝塚 (60m)	
	50m級			マエ塚 (48m)	箸中イヅカ (45m)	寺口和田13 号(50m)	
	35m級	竹林寺 (40m)		鳶ヶ峯 (40m)		駒塚 (34m)	新沢500号 (32m)

・暗越奈良街道沿いに立地する主要な古墳の共通点

宝来山古墳：奈良盆地北西側の入口で秋篠川渡河地点に立地。

竹林寺古墳：竜田川の渡河地点に立地。

石切劔箭神社：瀬戸内海に通じる草香江（河内湖）からの上陸地点に立地。

→ 古墳時代前期後葉に倭王権の下で暗越の道路開発を担った一代限りの有力者の墓。

3. 生駒谷の地域特性と壺分遺跡群の性格

暗越の道路開発を契機に生駒谷は中継地となり、物流・地域支配の中心集落として壺分遺跡群が形成。

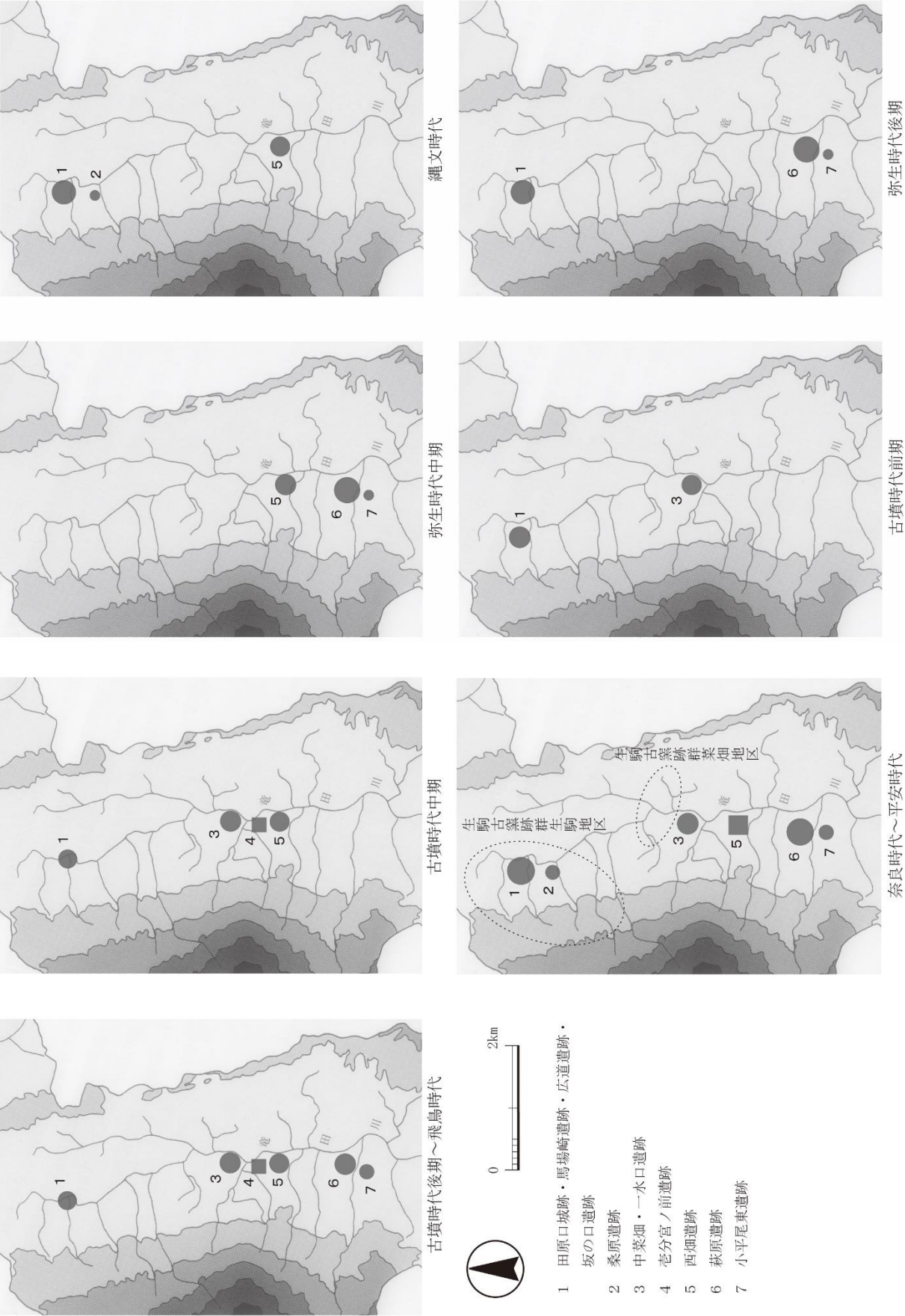


図5 生駒谷の集落遺跡分布の変遷（縄文時代～平安時代）